

平成28年度
こども 夢・創造プロジェクト
評価の総括

平成28年(2016)年7月～平成29年(2017)年1月

こども 夢・創造プロジェクト実行委員会

神戸学院大学人文学部人文学科

教授 今西 幸蔵

評価の方法（2種類の調査の実施）

■生きる力調査

参加者（児童・生徒）対象に「生きる力」に関わる能力（学力）向上の量的調査を行う。この「生きる力」の能力指標には、OECDや経産省による社会人基礎力等の新しい学力観の視点も入れる。

■アンケート調査

保護者・参加者（児童・生徒）対象に、満足度や変容の認知について、アンケート形式の調査紙調査により、質的・量的評価を行う。

経済産業省が求める社会で必要とされる能力

社会人基礎力とは

・・・職場や地域で活躍(仕事を)する上で必要な力

基礎学力

(読み、書き、算数、
基本ITスキル等)

社会人基礎力

(コミュニケーション力、
実行力、積極性等)

専門知識

(仕事に必要な
知識、資格 等)

人間性、基本的な生活習慣

(思いやり、公共心、倫理観、基礎的なマナー、身の周りのことを
自分でしっかりとやる 等)

評価の観点(1)生きる力調査の能力指標

能力指標の策定にあたっては、国立青少年教育振興機構の研究をもとに、社会人基礎力等の考え方を付与し、28項目を選択、確定した。

■心理的社会的な能力

- ・心理的エネルギー(4項目) 例)自分から進んで何でもやる など
- ・社会的スキル(6項目) 例)誰とでも仲良くできる など
- ・判断力(4項目) 例)人の話をきちんと聞くことができる など

■徳育的能力

- ・自己規制(2項目) 例)わがままを言わない、身の回りの片づけや掃除ができる など
- ・情緒(6項目) 例)決まりやルールを守ることができる、周りの人と協力できる など

■身体的能力

- ・日常的行動力(2項目) 例)作業に集中してうまくできる など
- ・身体的耐性、社会への適応(4項目) 例)道具を上手に使える など

評価の観点(2)アンケート調査の項目

保護者対象(12項目)

- ・変容の認知
- ・個性や創造性
- ・社会性
- ・自主性、自信、意欲など

参加者対象(9項目)

- ・参加についての満足度
- ・自分自身の生活や意識の変容
- ・自分らしさ、長所、自分で何かをつくりだす力など

こども 夢・創造プロジェクト

「生きる力」の向上に関わる量的評価(350名が回答)

評価指標	事前調査 (ポイント)	事後調査 (ポイント)	変容度	有意差
「生きる力」全体 に関わる能力	134.9	138.7	3.8ポイント向上	有
心理的社会的 な能力	67.0	69.1	2.1ポイント向上	有
徳育的能力	39.3	40.2	0.9ポイント向上	有
身体的能力	28.5	29.4	0.9ポイント向上	有

「アンケート調査」による量的・質的評価

保護者対象(299サンプル)

- ・こどもの変容を認知した。(自信・集中力)
- ・職業意識が形成された。(進路を考える)
- ・キャリア開発、スキルの向上、社会性の育成につながった。
- ・科学への興味や関心が高まった。

参加者対象(336サンプル)

- ・全体では「芸術・芸能」への関心が高かった。
- ・具体的な職業と自分とが結びついた。
- ・プロとの出会いに感動した。

事業の総括的評価

こども 夢・創造プロジェクトに参加された保護者・参加者の評価

【期待された能力】

- ・「生きる力」や「社会人基礎力」に関わる学力は確実に獲得されていることが実証された。
- ・キャリアに対する理解を深める機会となっている。

- #### 【保護者】
- ・事業への参加によって多くのこどもが変容したと思われる。
 - ・社会性が身につくようになった。

- #### 【参加者】
- ・本格的なプロとの出会いにより、自分に自信が生まれ、将来の職業への展望が開かれるようになった。
 - ・チームワークと呼ばれるような仲間づくり意識が育成されるようになった。
 - ・自分の変容の自覚については、半分の人が十分ではなかった。